

筑波大学附属大塚特別支援学校

“世界水準の教育”を目指しているミライ志向の研究実践校です！

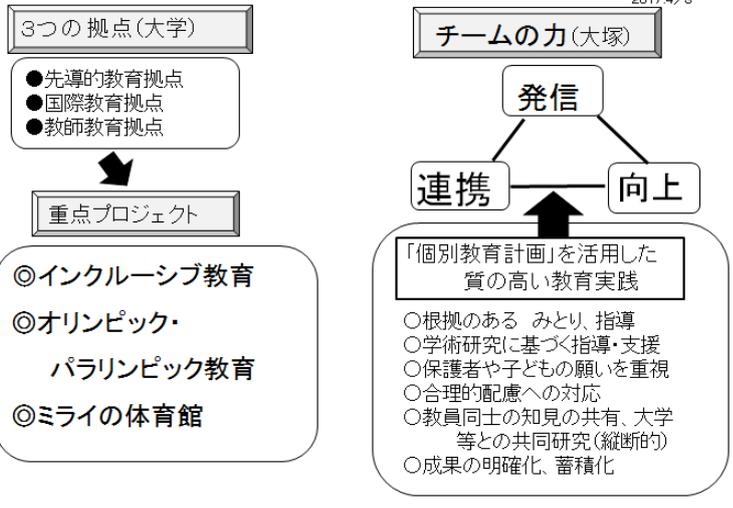
本校は明治41年(1908年)に東京高等師範学校(現、筑波大学)附属小学校第三部補助学級を前身とし、知的障害のある幼児・児童・生徒を対象とする国立大学附属の特別支援学校として57年の歴史があります。

幼稚部・小学部・中学部・高等部・支援部を設け、教育計画に基づいて幼児・児童・生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育を行っております。

筑波大学の中期目標、筑波大学学校教育局の掲げる三つの拠点構想を学校運営の柱とし、「連携」「向上」「発信」をスローガンに学校力を高め、知的障害教育の拠点としての自覚と使命をもって教育・研究を進めています。

【教育方針】 子ども自身の願いや思いを大切に、自立と社会・文化への参加をめざし、発達及び可能性のより豊かな発現を図る。

大塚特別支援学校がめざすもの(2017年度)



本校では昭和60年代に「経験内容表」、「教育課程」を作成し、研究協議会を通して全国に知的障害教育のカリキュラムと指導方法を発信してきました。やがて障害の重度多様化が顕著になり、個への教育的対応を明確にする「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成する取

り組みを進めるとともに、特別支援教育時代に即応するカリキュラムのあり方を模索してきました。平成21年に「学習内容表」を作成し、平成27年には研究成果を本にまとめ出版しました。

学校研究

平成27年から始まった“ミライの体育館”プロジェクト(研究代表:筑波大学鈴木健嗣教授)のもとで本校では体育館に設置したプロジェクション・マッピングの設備を活用して授業を展開しています。この最先端の情報工学・発達心理学・医学の学際的研究の中で、知的・発達障害のある子どもたちの社会性や自分を表現する力が育まれています。未来の共生社会に向けて今後も様々な活動プログラムを開発していきます。



ミライの体育館

本校では個のニーズと発達段階に応じた教材・教具の作成と活用に力を入れています。教材は、生活力と教科学習のレディネスとなる認知力を高めるための手作り教材から、最新技術を活用したICT教材まで多岐にわたります。教材・教具開発班を中心に学校全体での教材の共有化を図っており、切れ目のない教育支援の実現のために尽力しています。



教材・教具

心のバリアフリー事業



文部科学省から委託された「学校における交流および共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」では、他の筑波大学附属学校や地域の学校の幼児・児童・生徒とスポーツや表現活動や共同体験を通じた交流を行っています。障害のある子どもない子ども同じ目標をもち共に楽しむことのできる持続可能で発展的な交流のモデルを発信していく予定です。